



学習評価で大切にしたいこと

年間を見通した学習評価

国語科では、一つの指導事項を年間で複数回繰り返して指導することが多いです。そのため、年間を見通して、単元の目標や評価規準を設定することが重要になります。

児童の具体的な姿を想定した学習評価

国語科では、言語活動を適切に位置付けて指導することが大切です。児童が取り組む活動の中で、例えば文章を読み取ってまとめているリーフレットの中に、どのような児童の記述があれば「おおむね満足できる」状況と評価できるのかについて、言語活動と関連付けて想定しておくことが大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。なお、国語科においては、基本的には「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準となります。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

国語科における「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、意思的な側面を評価します。なお、国語科では次の四つの内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて評価規準を設定します。

- I 粘り強さ（例：積極的に、進んで、粘り強く 等）
- II 自らの学習の調整（例：学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして 等）
- III 他の2観点〔知・技〕〔思・判・表〕において、重点的に指導する内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
- IV 当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

第5学年及び第6学年〔思考力・判断力・表現力等〕「C 読むこと」（言語活動例：C（2）イ）
本単元の言語活動：気に入った宮沢賢治の作品について、ポスターを基に友達に推薦する活動

単元の評価規準例 粘り強く（I）登場人物の相互関係や心情等について描写を基に考え（III）、学習課題に沿って（II）推薦しようとしている（IV）。

Point

ねらいや言語活動と結び付けて、粘り強さや自らの学習を調整する内容を位置付けることが大切です。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの3領域の指導の中に、知識及び技能の内容である言葉の特徴等の指導事項を位置付けて評価することが基本です。語彙では想定される文言を複数想定しておき、それらの文言が使えたかどうかで評価します。

思考・判断・表現

話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの3領域における思考力、判断力、表現力等が身に付けられているかを評価します。その際、低学年では事柄の順序、中学年では段落の関係、高学年では全体の構成等、発達段階に応じて見取ることが大切です。

主体的に学習に取り組む態度

粘り強さと自らの学習調整の関わり合いを踏まえて評価します。例えば、単元のゴールである音読発表会の見通しをもった上で、登場人物の気持ちなどが的確に表れている文を見つけ、自分が読み取った内容に合うように音読を繰り返している姿等を見取るようにします。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 3観点をバランスよく評価

国語科では、言語活動のまとまりの中で評価を行います。そのため、単元全体の言語活動を見直し、児童の姿が最も見取りやすい時間に評価を位置付けることが大切です。

2 単元の評価規準の具体化

国語科では、単元の評価規準を教材に照らして具体化したものを「指導と評価の計画」に位置付けます。具体化に向けては、文学的な文章を読み込む等、教材分析が必要です。

(例) 第6学年「C 読むこと」(文学的な文章)の授業

◇ 単元名 宮沢賢治の作品を読み味わい、ポスターで友達に推薦しよう 教材名「やまなし」、宮沢賢治作品

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	①「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情等について、描写を基に捉えている。 ②文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	①粘り強く登場人物の相互関係や心情等について描写を基に考え、学習課題に沿って推薦しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全10時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
3	・かにの親子の様子について、「五月」と「十二月」を比べて読む。	思	1	[思・判・表①] (観察) ・かにの親子や兄弟の相互関係等について、かにの言動等に注目しながら、「五月」と「十二月」を対比して読む読み方を確認している。
4	・川底の様子について、「五月」と「十二月」を比べて読む。	知	○	[知・技①] (ワークシート) ・色彩表現や擬声語・擬態語等の使い方に対する感覚を働かせ、それらの語や語句を使って発言したりワークシートにまとめたりしている。
6	・飛び込んでくるものについて、「五月」と「十二月」を比べて読む。	思	○	[本時] [思・判・表①] (観察・ワークシート) ・「飛び込んでくるもの」と「かに」の相互関係等について、かにの言動や周りの情景を表す描写等に注目しながら、「五月」と「十二月」の特徴を対比して読んでいる。
8	・推薦したい宮沢賢治の作品についてポスターにまとめる。	主	○	[主①] (観察・ワークシート) ・ポスターで推薦するという学習課題を意識しながら、何度も文章を読み返して場面の様子の特徴付けている描写等を見付けようとしている。

指導に生かす評価

単元の前半で、対比して読み進められていない児童に対して、机間指導の中で叙述を整理して示す等しながら支援します。

記録に残す評価

対比した読み方を基に読み取っているかについて、児童全員の学習状況を記録します。授業後に評価規準を基にワークシートの記述から見取ることも必要になります。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況(B)の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [思・判・表①]

かにの言動や周りの情景を表す描写等に注目しながら、かわせみとやまなしの共通点や相違点から関係を捉えることを通して、「五月」は弱肉強食の恐ろしい世界、「十二月」は穏やかで平和な世界のように、それぞれが象徴しているものについて対比的にワークシートに記述したり発表したりしている。

Point

具体的な児童の姿の設定

- ・目の前の児童が関わってくる叙述等を見定める。
- ・叙述等を解釈した児童の読みを複数挙げる。
- ・指導事項に照らして児童の読みを一般化する。

評価方法の例

- ・叙述にサイドラインを付けたり理由を書き込んだりしているワークシートやノートの記述
- ・リーフレットなど言語活動でまとめた作成物



学習評価で大切にしたいこと

指導する領域の明確化

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域を「思考・判断・表現」の一つの観点で評価します。単元の中でどの領域を重点的に指導するのかを明確にして、授業をつくることが求められます。

指導事項を達成するための言語活動

単元の目標を達成するために、学習指導要領の言語活動例を参考して、適切な言語活動を設定します。「活動あって学びなし」の状態にならないように、活動のみで終わらず、指導事項の指導と評価を確実に行うことが必要です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。なお、国語科においては基本的には「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準となります。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを深めたりしながら、言葉がもつ価値を認識しようとしているとともに、言語感覚を豊かにし、言葉を適切に使おうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、下記のⅠ～Ⅳの内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて設定します。何の指導事項に重点を置いて、この単元で指導するのか考えることが必要です。

- Ⅰ 粘り強さ（例：積極的に、進んで、粘り強く等）
- Ⅱ 自らの学習の調整（例：学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等）
- Ⅲ 他の2観点〔知識・技能〕〔思考・判断・表現〕において、重点的に指導する内容
- Ⅳ 当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

Point

具体的な言語活動とは例えば、自分の考えを文章にまとめたり、伝え合ったり等の言語活動です。

第2学年〔思考力、判断力、表現力等〕「B 書くこと 工」（言語活動例：B(2)イ）
本単元の言語活動：社会生活に必要な手紙や電子メールを書くなど、伝えたいことを相手や媒体を考慮して書く活動

単元の評価規準例：粘り強く（Ⅰ）、表現の効果など確かめて文章を整え（Ⅲ）、これまでの学習を生かして（Ⅱ）、お礼状を書こうとしている（Ⅳ）。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

「思考力・判断力・表現力等」の指導の中で、例えば「読むこと」の学習を通し、語彙等の習得状況を評価することが基本です。言葉のきまり等を取り上げて、ある程度のまとまった「知識及び技能」を指導し評価することもできます。

思考・判断・表現

「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域を評価する上で、年間指導計画を基に、3領域の配当時間数が適正になるように指導と評価をします。学習の中で自分の意見を思考し表現するような場面を設けて、発言や記述に着目し評価します。

主体的に学習に取り組む態度

具体的に設定した意見交流会等の言語活動を通しての学習への取組を評価します。例えば、発表会に向けて、自分の文章の表現を繰り返し修正している姿や、目的に合うように、既習の言語知識等を生かそうとしている姿等から見取ります。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価

授業の中で努力を要する状況を見取って目標達成へ向けて支援します。例えば、「書くこと」では「考えの形成」「記述」「推敲」等を繰り返しながら、重点とする内容の定着を図ります。

2 3観点をバランスよく評価

3観点を毎時間評価をするわけではありません。国語科では、言語活動の流れを踏まえ、単元の評価規準を基に、それぞれの時間の評価規準を考え、効果的な時間で3観点を設定します。

(例) 第2学年「B 書くこと」の授業 ◇ 単元名 「職場体験学習」でお世話になった方へお礼状を書こう
◇ 単元の評価規準 ～読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめて、文章を整える～

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使っている。	①「書くこと」において、読み手の立場に立って、表現の効果などを確かめ、文章を整えている。	①粘り強く、表現の効果などを確かめて文章を整え、これまでの学習を生かして、お礼状を書こうとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全3時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> お世話になった方へ、お礼状を書くという単元の見通しをもつ。 お礼状の書式や既習の敬語について確認してから、下書きを書く。 	1 思		[思・判・表①] (下書き) ・読み手の立場に立ち、表現の効果等を確認、下書きを書いている。
2	<ul style="list-style-type: none"> 4人グループで下書きを読み合い、推敲のポイントに従い、コメントを付箋に記入していく。 付箋を基に、表現の効果について各自確かめ、自分の下書きを推敲する。 	主	○	[主①] (観察・下書き) ・具体的な事例の効果や敬語の使い方等に注目して、読み手にお礼の気持ちが伝わるように修正しようとしている。
3	<ul style="list-style-type: none"> 推敲をした下書きを基に、お礼状を清書する。 宛名書きをして発送の準備をする。 単元の振り返りをする。 	2 知 思	○ ○	[知・技①] (清書・下書き) ・尊敬語、謙譲語、丁寧語を適切に使用している。 [思・判・表①] (清書・下書き) ・感謝の気持ちが伝わるように、具体例の表現の効果等を確認、文章を整えている。

指導に生かす評価

単元の前半では、「推敲」等の重点的に指導する内容を明確にして生徒と目標を共有します。授業の中で、個々のつまづきの状況を見取り、表現の効果を再確認させる等の支援を行います。

記録に残す評価

言語活動の最後等に、重点とした内容が身に付いているかどうかの学習状況を記録に残します。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の生徒の姿

◇ 評価規準を生徒の姿で示した具体例 [思・判・表①]

お世話になった方へ感謝の気持ちを伝えるために、具体例等の記述が分かりやすいかどうかを友達からの付箋等を基に判断し確かめて、自分の文章を見直し修正してお礼状を書いている。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために

- 指導事項と教材や言語活動の内容に合わせて、生徒へ期待する姿(発言や記述)を考える。
- 記述している言葉や発言の内容が具体的にどこまで表現されていればよいのか明確にする。
- 「自分の考えを記述する場面」等、本時の中で適切に評価する学習場面を決める。

評価方法の例

- 文章の中から、どの言葉を選んで書いているか等のノート記述
- 意見交流をしている様子等の観察メモ
- ノート等への自分の考えの記述
- 完成した作文等の作品